



1年の火災ゼロを誓って

令和8年松前町消防出初式

「令和8年松前町消防出初式」は1月11日、松前公園体育館で行われ、消防団員などの消防関係者約300人が参加しました。

式典では、功績のあった団員の表彰が行われ、参加した皆さん、火災予防に対する意識を高めていました。被表彰者は下の通りです（敬称略）。



⑥参加した263人の団員

⑦表彰を受ける団長



▶知事表彰

<個人表彰>

第3分団 分団長 岩本 裕記
第3分団 団員 赤星 文人

▶愛媛県消防協会長表彰

<功績章>

第4分団 分団長 八束 健

<勤続章>

（10年以上）

第1分団 班長 矢野 雅之
第3分団 団員 藤川 篤史
第4分団 団員 仙波 政美
第9分団 班長 高田 洋一

<規律章>

第1分団 団員 仲田 昌生

第2分団 団員 秋山 由樹

第6分団 班長 金子 崇

第8分団 班長 石橋 幸治

<感謝状 家族内助の功労者>

第2分団副分団長夫人 穴山かおり

▶町長表彰

<個人表彰>（消防団員歴2年以上）

第2分団 団員 西村 秀義

第2分団 団員 星加 崇行

第4分団 団員 門屋 慶彦

第4分団 団員 加藤 宏崇

第5分団

団員 平野 正和

第5分団

団員 日野 信吾

第7分団

団員 小池 功士

第7分団

団員 佐々木秀人

第8分団

団員 谷岡 龍星

第9分団

団員 川中 知倫

第9分団

団員 久保 裕介

<兄弟表彰>（実の兄弟が5年以上在職）

第3分団

団員 戎田 洋祐

第3分団

団員 戎田 裕司

<優良分団表彰>（他の模範となる分団）

第3分団、第5分団、第9分団

▶松前町総会長感謝状 第1分団



年末を彩る壮大な歌声

2025松前町第九演奏会

「2025松前町第九演奏会」は12月21日、文化センターで2回に分けて開催され、松前町第九合唱団とオーケストラ約300人が、壮大な音色を響かせました。

この演奏会は、町内の音楽愛好者を中心として平成21年に始めた手作りの演奏会です。16回目を迎えた今回の演奏会では、第一部に伊予高等学校と松山東高等学校の吹奏楽部がそれぞれ演奏。第二部では2校の吹奏楽部に松山東高等学校と松山南高等学校の弦楽部も加わりました。さらに、藤岡葉子さん、豊田千恵子さん、八木徹雄さん、大森いちえいさんの4人のソリストと松前ひまわり少年少女合唱団や岡田カトトレアコーラスの皆さんを含む第九合唱団が、歓喜の歌声を披露。その美しいハーモニーに、満員となった会場からは、惜しみない拍手と歓声が送られていました。



⑧昨年よりもオーケストラの人数が増え、大迫力の音色となった演奏会

⑨第一部を彩った伊予高等学校吹奏楽部の息の合った演奏





広域連携で地域ブランド力を高める 「伊予の輝き だしの十字路」構想

伊予市、松前町、砥部町の3市町が連携をして、地域のブランド力の向上を目指す「伊予の輝き だしの十字路」構想の準備委員会である「(仮称) 伊予・松前・砥部だし文化推進協議会準備委員会」が12月24日に開催され、3市町の市長、町長や関係職員が集まりました。

これは、各市町の地域資源を、世界に通用する「うま味(だし)」という強力なコンセプトで束ね、地域全体を「食と文化」でブランディングし直すものです。今後は、官民広域連携で協議を進め、新しい持続可能な地域経済圏の確立を目指していきます。



新春を祝つて

令和8年新春年賀のつどい

「令和8年新春年賀のつどい」は1月5日、文化センターで開催され、165人が参加しました。会場内では新年最初のお茶会「初釜」も同時に行われました。

オープニングセレモニーでは、宗意原獅子舞保存会による獅子舞や伊予民謡研究会の豊紅茂弥さんによる演舞が披露されました。その後、参加者は、おののおいさつを交わして新年を祝い、親睦を深めていました。



合言葉は「過去から未来をつくる」 みんなでつくる義農公園再整備プロジェクト

昨年11月～12月に、新しい義農公園の在り方を考えるワークショップを全4回開催しました。一般参加者約20人に加え、伊予高校生(探Q活動・まちづくり班)を含むアドバイザー約20人が参加し、世代や立場を超えた意見交換が行われました。

「過去から未来をつくる」を合言葉に、遊び、スポーツ、くつろぎ、にぎわいや歴史といったテーマを掲げ、義農公園を「つくって終わり」にせず、「みんなで育てていく」ための考え方や工夫について話し合いました。

プロジェクトの詳細は町ホームページで随時更新しています。また、2月中旬からは役場で新しい義農公園のイメージ模型の展示も予定しています。



ピオトープで育てたお米でおにぎり作り

松前町子ども環境学園 2025 番外編

12月14日、福祉センターで「松前町子ども環境学園2025」の番外編が行われ、エミフルピオトープで子どもたち自身が田植え・収穫をしたお米を使っておにぎりを作りました。

まず、お米の栽培に携わってもらった喜安興さんから、収穫した米の乾燥から精米までの工程の説明を受け、その後みんなでおにぎりを作りました。子どもたちは「自分たちで育てたお米で作ったおにぎりはおいしい。いくらでも食べられる」と喜んでいました。



みんなに寄り添った存在に 人権擁護委員に対する法務大臣表彰

人権擁護委員に対する法務大臣表彰が10月20日に行われ、町内から松田雅子さんと水本諭さんの2人が表彰されました。人権擁護委員は、人権相談などを通じて人権侵害を受けた被害者の救済を行うとともに、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらうためにさまざまな啓発活動を行い、地域に密着した活動を行っています。

松田さんと水本さんは、松山人権擁護委員協議会の中心となって活躍するとともに、地域における人権擁護活動に積極的に取り組まれてきました。今回は、長きにわたり人権尊重思想の普及高揚に尽力されたことが高く評価されました。

2人は「長年の私たちの活動を評価していただき、このような表彰を受けたことを大変ありがたく思います。人権擁護委員活動を通じ、私たちもさまざまなことを学ばせていただきました」と話していました。



磨き上げた技能で表彰

職業訓練功労者等表彰 優秀技能者知事表彰

11月27日、愛媛県生涯学習センターで愛媛県職業能力開発促進大会が開催され、理容サロンニューグリーン=北川原=の石山 緑さんが職業訓練功労者等表彰の優秀技能者として愛媛県知事表彰を受けました。これは、技能が極めて優秀で、県内や関係業界で高く評価されている人に贈られるものです。

石山さんは「理容師になれたことを誇りに思っています。この表彰に恥じぬようにこれからも精進していきます」と話していました。



災害時に命をつなぐ備えを

災害備蓄用非常食の寄贈式

12月24日、国連NGO JACE NGOs 日亜文化交流協会 (JACE NGOs 研究員 エムズ株式会社 松木豪介代表) から、長期常温保存ができるおむすび(「天使のお結び」)が災害備蓄用非常食として寄贈されました。このおむすびは、開封後すぐに食べることができ、アレルギー物質にも配慮しています。松木代表は「有事の際に、命をつなぐ一助になればいいと思っています」と話していました。



まちのインフラ整備を見学

松山工業高校生が筒井地区雨水貯留施設を見学

12月16日、松山工業高等学校土木科2年生の31人を招き、筒井地区雨水貯留施設整備工事の現場見学会を開催しました。この見学会は、高校生に土木技術の魅力を直接伝え、土木業界の重要性を理解し、イメージアップを図ることを目的に行われたものです。

谷口剛さんは「施設内は思ったよりも広かった。住んでいる近くが冠水したことがあったから、施設が完成して被害が解消されるならいいと思った」と話していました。





ようこそ、まさき町へ

まさき・まつまえ姉妹都市ふれあい交流事業

姉妹都市である北海道まつまえ町の児童10人が、ふれあい交流事業の一環として、12月26日から28日まで本町を訪れました。

夏にまつまえ町で交流を行って以来、5ヶ月ぶりの再会に児童たちは大喜び。初日は、松山空港で対面式を行った後、道後商店街や道後温泉本館を訪れて交流を深めました。

2日目は、松山城見学の後、伊予高等学校で同校の生徒が考案した特産の「はだか麦」を使ったマーボー豆腐丼、水ぎょうざスープやプリンを作りました。慣れない調理に四苦八苦した児童もいましたが、高校生に作り方を教わりながら完成させ、みんなで「はだか麦」を味わいました。その後は、松前町を代表するスポーツのホッケーとエミフルMASAKIにあるアスレチック施設「トンデミ」で仲良く体を動かしました。ホッケーをするのは初めての児童がたくさんいましたが、まさき町対まつまえ町で対決して盛り上りました。

最終日は、砥部焼きの絵付け体験をした後、お別れとなる松山空港へ。3日間という短い時間でしたが、まさき町をはじめ、愛媛県の文化や食に触れ、かけがえのない体験をして友情を深めた児童たち。お別れの瞬間はとても寂しそうでした。

本年度の交流事業はこれで終了となります、1,500キロメートル離れた児童たちの交流は、これからも続いていきます。



1_久しぶりようこそ! 2_道後温泉に少し緊張 3_殿様気分で「はいチーズ」 4_伊予高生が考案したレシピ 5_おいしそうなマーボー豆腐が完成 6_餃子を上手に包む 7~9_白熱したホッケー体験 10_高いところもへっちゃら 11~12_丁寧に給付け 13_まさき町の児童がデザインしたおそろいのTシャツを着て記念撮影



伝統文化の継承に寄与

子ども伝統文化フェスタで知事感謝状

令和7年度県民総合文化祭「子ども伝統文化フェスタ」は11月23日、愛媛県県民文化会館で開催され、子どもを対象として、長年伝統文化の担い手育成に多大な貢献をされた功績により、木下ミサ子さんが知事感謝状を贈呈されました。木下さんは、12年にわたり北伊予中学校で茶道の指導に携わるとともに、地区行事においても茶席を設けるなど、積極的に活動しています。

木下さんは「子どもたちに茶道の楽しさや思いやりの心を伝えてこられたことをありがとうございます。これまで支えてくださった皆さんに心より感謝します」と話していました。



いざという時に慌てないために

110番教室

「110番教室」は1月9日、北伊予小学校で開催され、全校児童が参加しました。この取り組みは、子どもたちが防犯に関する知識を身に付け、日常生活で実践しようとする意識を高めることを目的に行われたものです。

110番通報の方法の講話、代表児童による110番模擬通報訓練や愛媛県警察音楽隊によるミニコンサートが行われました。3年生の山崎菜里さんは「通報の仕方や伝えることを詳しく知ることができた。まだ携帯電話は持っていないので、周りの大人に頼るようにならう」と話していました。



世界に1つだけのカレンダー

筆文字アート 2026年のカレンダーを作ろう!

「筆文字アート 2026年のカレンダーを作ろう!」は12月26日、児童館で開催されました。参加した子どもたちは、講師の佐伯悠汀さんにアドバイスをもらいながら、筆で文字やイラストを描き、テープや今年の干支である午のシールを使って、思い思いのカレンダーを作成させました。

参加した小林未央さんは「楽しかった。2026の数字をバランスよく書けるように気を付けた」と話していました。



一生懸命育てたよ

人権の花運動「花の贈呈式」

人権の花運動「花の贈呈式」は1月16日、青葉幼稚園で開催されました。

この運動は、子どもたちが育てた花を施設などに届けることで、人権の輪を広げる取り組みです。今年は、青葉幼稚園の園児らが大切に育てた花を、東公民館、町内の金融機関や福祉施設の関係者などに手渡しました。受け取った皆さんには、鉢からあふれるほどに植えられた花に笑顔を見せっていました。

